短 報

クリプトコッカス蜂巣織炎の1例

国立大阪南病院臨床検査科¹⁾, 近畿大学医学部第2病理学教室²⁾木村 雅友^{1,2)} 門田 永治²⁾ 佐藤 隆夫²⁾ 蛭間 眞悟²⁾前田 光代²⁾ 酒谷 邦康¹⁾

I. はじめに

クリプトコッカスの細胞像については、喀痰細胞診での記述がほとんどである。今回われわれはクリプトコッカス蜂巣織炎を経験したのでその捺印細胞像と組織像について報告する。

II. 症 例

患者：65歳，女性

主 訴：右肘関節屈側の腫脹，疼痛

現病歴：昭和63年11月から貧血の治療のため入院してステロイドを投与されていた患者の右肘関節部屈側に平成1年9月24日腫脹が生じ，39°C台の発熱および患部の発赤，疼痛を伴うようになったため蜂巣織炎と診断された。ステロイドの中止後，ペニシリン系抗生剤を投与したが，病巣が縮小しないため，10月12日病巣皮膚に切開を加え，皮下に認められた壊死組織をかきとるように摘除した。

病理組織学的所見：摘除された検体はほとんど脂肪織と壊死組織で，多形核白血球が瀰漫性に浸潤し肉芽

増生もみられた。炎症細胞浸潤とともに無数の小嚢胞が認められ，莢膜に囲まれた酵母細胞と判明した（写真1a）。アルシアンブルー（写真1b），ムチカルミンの各染色では酵母細胞を囲む莢膜はリング状で外方へ向けて放射状の突起を出していた。これらの組織所見からこの酵母は，クリプトコッカスと考えた。

細胞診所見：10日間ホルマリン中に保存してあった検体のスタンプ標本を作製し，種々の染色を施した。パバニコロウ染色では莢膜に相当する5~20μmの幅を有する透明な領域に囲まれて，直径5~15μmの球状で灰色半透明な酵母細胞が認められた（写真2a）。またクリプトコッカス細胞が出芽しているところは涙滴状であった（写真2b）。

III. 考 察

Rippon⁴⁾によれば皮膚や皮下に局限したクリプトコッカス症はきわめてまれで，免疫抵抗力の減弱した

写真 1a(左) 壊死部のクリプトコッカス (PAS, ×50)

写真 1b(右) 莢膜の明瞭なクリプトコッカス (alcian-blue, ×250)

A case of cryptococcal cellulitis

Masatomo KIMURA^{1,2)}, M.D., Eizi KADOTA²⁾, M.D., Takao SATOU²⁾, M.D., Shingo HIRUMA²⁾, C.T., I.A.C., Mitsuyo MAEDA²⁾, C.T., I.A.C., Kuniyasu SAKATANI¹⁾, M.D.

¹⁾Clinical Laboratory, National Hospital Osaka Minami²⁾Second Department of Pathology, Kinki University School of Medicine

論文別刷請求先 ☎ 589 大阪府狭山市大野東 377-2 近畿大学医学部第2病理 木村雅友

平成2年9月26日受付

平成2年10月12日受理

写真 2a(左) スタブ細胞像。莢膜は空隙として認められる (Pap., $\times 250$)

写真 2b(右) 莢膜の不明瞭な細胞 (PAS., $\times 250$)

患者が罹患する。免疫抵抗減弱患者に皮膚の発赤、腫脹あるいは潰瘍などの病変があれば日和見感染による皮膚病変も疑って、病巣のスタンプ細胞診や穿刺吸引細胞診が施行されるべきである。病原微生物が真菌であれば細胞診で発見することが可能である。

クリプトコッカスは酵母様真菌で、パパニコロウ染色では淡青色～無色の球状をしており²⁾、周囲に莢膜を有しこれは細胞壁と浸出液などとの間の透明な染色されない部分として観察される¹⁾。本症例でも写真 2a のごとくほとんど無色の酵母細胞の周囲に透明な部分があるため、赤血球や炎症細胞は酵母の細胞壁に接触することができず、遠巻きにして酵母を囲んでいた。

莢膜はクリプトコッカス以外の真菌には認められないので、クリプトコッカス症の形態的診断には有力な証拠となる。この莢膜は PAS, アルシアンブルー, ムチカルミンで染まる。しかし莢膜を持たないクリプトコッカスの場合、酵母細胞が出芽して涙滴状にみえることや¹⁾、酵母細胞の大きさが $5\sim 20\ \mu\text{m}^3$ とカンジダに比して大型であり、仮性菌糸を作らないことなどが特徴としてあげられる。

本症例を主治医として担当され、症例報告を許諾くださいました城山病院の上嶋一芳副院長に深謝します。

文 献

- 1) Frable, W.J. and Johnston, W.W. (早田義博訳) : 呼吸器細胞病理学, International cytology slide sets, Vol. 19, pp. 6~7, 丸善, 東京, 1979.
- 2) Hajdu, S.I. and Hajdu, E.O. (上井良夫訳) : 脳脊髄液の細胞診とその組織学的基礎, International cytology slide sets, Vol. 24, p. 6, 丸善, 東京, 1979.
- 3) Prolla, J.C., Rosa, U.W. and Xavier, R.G. : The detection of *Cryptococcus neoformans* in sputum cytology, Acta Cytol., 14 : 87~91, 1970.
- 4) Rippon, J.W. : Cryptococcosis. In Medical Mycology, third edition, pp. 582~609, W.B. Saunders, Philadelphia, 1988.